

第4期鎌倉市環境基本計画の将来像（案）

1. 前回環境審議会の振り返り（未来ビジョンの方向性の導出）

前回の環境審議会では将来像の検討に向けて「第1回かまくら環境ワークショップ」での未来のアイデアや「市民アンケート」「事業者アンケート」等の各種調査結果のポイントを紹介しました。それらのアイデアやポイントを踏まえて、具体化した未来ビジョンとイメージイラストの方向性を提示しました。なお、調査結果のポイントには新たに今年の1月～2月に追加で行った事業者・環境団体ヒアリング調査の結果を反映しています。

■ワークショップでのアイデアと調査結果のポイントの整理（令和8年1月20日開催 第3回環境審議会での提示資料のまとめ（ヒアリングの調査結果は追記）） ■未来ビジョンの方向性（令和8年1月20日開催 第3回環境審議会での提示資料の抜粋）

ワークショップ及び各種調査	実施時期	ワークショップでのアイデア・調査結果のポイント (文末の()内の数字は、各箇条書き文章の該当するキーワードの番号に対応しています。)
第1回かまくら環境ワークショップ	令和7年(2025年)11月	<ul style="list-style-type: none"> 交通・エネルギー・建物を含む暮らし全般で脱炭素化を進め、家庭・事業所・公共施設で省エネ行動を定着させる。(①) 海面上昇や災害、健康影響に対し、インフラ整備、緑の保水機能向上、市民の危機管理意識向上で備える。(②) 緑の「量」だけでなく機能を重視し、外来種対策と人と野生動物の適切な共生を図る。(③) 建物の外観や景観を保ちながら建物内部の省エネ化を進め、景観の保全のため風致地区などで官民専門家が連携する。(③) 観光需要の分散・誘導・ルール啓発により過密や景観悪化を防ぎ、住民の美意識と技術活用で観光客との共存を図る(④) リデュースの徹底、リユース・修理・アップサイクルの文化、「所有から共有」への転換と非常時の廃棄物対応体制を整備(⑤) 若年層や無関心層を含む多様な主体が楽しく継続参加できる仕組みを整え、インセンティブや情報発信で心理的安全性の高いコミュニティを育む(⑥)
アンケート調査	市民	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化と自然の一体感を鎌倉市の良いところと考えており、将来像として、歴史・文化と結びついた自然環境や景観の保存への要望が多く回答された。(③) ごみの削減や分別や節電の取組の実施率は高いが、環境保全活動への参加率は低く、環境に関する取組の課題として6割が「個人だけで取り組むことがむずかしい」と回答している。(①・⑥)
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 約9割が環境問題に関心を持っており、環境保全の取組について、社会的な責任(CSR)から必要と考えている。(⑥) 約6割がごみの削減分別・リサイクルや節電の取組を行っているが、自然環境保全活動の主催や参加をしている事業者は1割未満であり、環境保全活動実施にあたって労務上の負担の増大や知識やノウハウ不足が課題となっている。(①・③・⑤・⑥)
	環境団体	<ul style="list-style-type: none"> 約9割の団体で活動の実施において、人材の確保、後継者の育成が課題となっている。(⑥)
	観光客	<ul style="list-style-type: none"> 約7割が「寺社・仏閣の拝観」を目的に訪れている。(③・④) 観光での環境にやさしいサービス(鎌倉フリー環境手形やパーク&ライド)は認知度が低く、あまり利用されていない。(④)
子ども	令和7年(2025年)11月	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や生活環境に関する意見が多く、特にごみのポイ捨てについては海洋プラスチックによる生態系への影響や景観を悪化させるなどの問題と絡めた意見が出された。(②・⑤) 小中学生は高校生以上と比べて「二酸化炭素をへらすこと」や「きれいな空気をまもること」、「ごみのポイ捨てやらくがきをなくすこと」、「野生の動物、植物とそれらが生きる場所をまもること」を重視している。(①・③・⑤)
ヒアリング調査	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 現時点でも美化活動や教育・啓発活動について学校や市内外の市民団体等との連携が行われている。(⑤・⑥) 本市の補助等の支援制度や市内の環境保全活動に関する情報について、発信の強化や団体の紹介などを希望する事業者もあった。(⑥) 人手不足や業務の多忙さにより、環境に関する活動の継続や新たな活動の実施は難しく、事業活動と両立可能な形での取組が求められている。(①・②・③・④・⑤・⑥) 農業・漁業では、気候変動による影響が顕在化しており、品種の変更などの適応の取組が進められている。(①) 施設整備や設備導入への支援、補助金制度の充実といったハード・ソフト両面での支援の要望があった。(①・②・⑥) 農業・漁業・廃棄物処理業など自然環境や環境問題に直に関わる事業者からは、市民に実態を知ってほしいという意見があった。(①・②・⑤・⑥)
	環境団体	<ul style="list-style-type: none"> 多くの団体から、行政が事業者や他団体とのマッチングする役割を果たすことへの要望が出された。(⑥) 他団体とは緩やかなつながりを持つことが望ましく、交流会などの情報共有の場を設けることの要望があった。(⑥) 環境や企画・運営に関する専門的知識だけでなく、鎌倉をよく知っている人材が重要であるとの指摘があった。(③・⑥) 市民への啓発のために、小中学校等での教育や楽しく参加できる活動が重要であるとの指摘があった。(⑥)
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年(2026年)1月～3月 連携を調整・推進する人材や仕組みが不足しており、行政の調整・コーディネート機能を強化してほしいという要望があった(⑥) 小規模な団体では難しい施設の整備や基礎調査に関して、行政からの支援、行政主体の取組を求める意見があった(②・③) SNSやホームページを通して、観光客には、来訪前に事前に情報を提供しておくことが重要だという指摘があった(④・⑥) ボランティア活動では、参加のハードルを下げ、緩やかな関わり方ができる仕組みづくりが重要だという指摘があった(⑥)

1. 気候変動対策では

- 交通・エネルギーといった暮らし全般の脱炭素化が一体的に推進され、カーボンニュートラルな社会が実現しています。
- 気候変動による災害激甚化、夏の高温などの影響への適応策が浸透し、気温上昇が続く中でも市民や事業者は賢明に対応しながら安心して暮らしています。
- 地球規模の問題危機感をもちつつも、ワクワク感を大事にした市民参加型のイベントや教育が行われ、地球温暖化の防止に向けた持続可能な活動が根付いています。

2. 自然環境の保全では

- 緑地の適切な管理により、鎌倉の貴重な緑が守られています。
- 緑の多様な機能(景観、災害抑制、CO₂吸収、雨水貯留、生態系保全など)が維持されています。
- 野生動物と人の活動するエリアが分けられ、在来の動植物及びその生息域が守られています。
- 自然や史跡を楽しみながらのハイキングやクリーンアップなど、歴史や文化、自然共生を学ぶエコツアーが行われています。

3. 歴史・文化の保全と活用では

- 昔ながらの景観を残しながら、環境性能の高い建物に更新されています。
- 観光客需要の分散やマナーの啓発により、まちの静けさや歴史的な自然環境が保たれています。
- 風致地区等で歴史的な自然環境を守るため、行政、市民、専門家等が連携して保全活動を行っています。

4. 生活環境の保全では

- 観光客のごみの持ち帰りが定着し、ポイ捨てや落書きのない、快適できれいなまちが保たれています。
- 市民の持つ高い美意識が鎌倉を訪れる人にも共有され、滞在する全ての人に環境保全の行動規範が定着して、静かで安心できる生活環境が保たれています。

5. 資源循環では

- リフューズ、リデュースの徹底とともに、リユースやリペアの日常化とアップサイクルが、鎌倉の文化として根付いています。
- 「所有」から「共有」への意識転換が進み、地域における資源循環への市民意識が当たり前のこととして定着して「ごみという概念のないまち」になっています。

6. 共創・連携では

- 子ども・若者・企業・地域をつなぐ参加の仕組みが広がり、誰もが安心して参加できる、心理的安全性の高いコミュニティが育っています。
- 市民に情報が届きやすい仕組みや、インセンティブ(特典・称賛・可視化)による継続参加の促進を図る取組が様々な進められています。
- 環境団体の活動に参加する人が増え、団体間の有機的な連携が進められています。
- 環境教育が必要な人に提供されています。

2. 未来ビジョンの具体化

未来ビジョンは、前回審議会で導出した未来ビジョンの方向性に加えて鎌倉市の特性を考慮した『将来に向けた視点』、国や県、他自治体の環境基本計画の整理に基づく『近年の環境のキーワード』、「鎌倉ビジョン 2034」や「鎌倉市環境基本条例」などの『関連計画・理念』の内容を踏まえて、検討しました。

将来に向けた視点

- 第3期鎌倉市環境基本計画及び未来ビジョンの方向性を踏まえ、将来の鎌倉の環境をより良いものにするために重視すべき視点を整理すると以下のようになります。

①豊かな自然と歴史的遺産の継承

鎌倉市には世界に誇る貴重な歴史的遺産に加え、明るく広がる海や緑豊かな丘陵の自然景観に恵まれており、鎌倉に関わる全ての人の想いが積み重なりかけがえない資産となっています。これら先人が築いてきたかけがえない資産は、今後も守り育て、後世に引き継いでいかなければなりません。

②環境保全活動の継承

鎌倉市の豊かな環境は、市民や市民団体等が率先して、まちや自然の環境を守り、より良いものにするための行動を行ってきたことによって維持されてきました。こうした人たちの思いをつないで、新たな担い手に環境保全活動を継承していくことが重要です。

③環境への負荷の少ない持続的に発展できる社会の構築

近年では、気候変動や生物多様性の問題などによって自然環境が変化し、これらの影響は我々の社会や活動に影響を与えています。こうした新たな課題に対して、技術や人々の行動を変えていくことで対応することが必要です。

④環境に関わる多様な主体の連携・協働

環境の保全には、鎌倉市に関わる市民・事業者・市民団体・滞在者がそれぞれの行動が欠かせません。

鎌倉に関わる全ての人が互いに関わり合っ、楽しく・無理なく環境に良い取組を継続・発展させていくことが必要です。

近年の環境のキーワード

- 国や県及び地方自治体の環境基近年重視されている環境のキーワードを整理すると以下のようになります。

国：第六次環境基本計画（キーワードは赤字）

持続可能な社会の実現を目標に、環境・経済・社会の統合的向上を掲げています。特に、脱炭素社会への移行、循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進、自然共生社会の構築を三本柱とし、気候変動対策や生物多様性保全を強化しています。また、ネイチャーポジティブや地域循環共生圏の形成を重視し、地方創生やウェルビーイング向上と連動させる点が特徴です。さらに、環境リスク管理や国際連携も強化し、社会変革を促すこととしています。

【キーワード】 持続可能な社会、脱炭素社会、循環経済（サーキュラーエコノミー）、自然共生社会、気候変動適応策、生物多様性保全、ネイチャーポジティブ、地域循環共生圏

神奈川県環境基本計画（キーワードは赤字）

脱炭素社会の実現を最重要課題とし、2050年カーボンニュートラルを見据えた温室効果ガス削減を推進しています。あわせて、資源循環の強化やプラスチック対策の推進、生物多様性の保全と自然共生社会の構築を柱としています。気候変動適応策や災害に強い地域づくりや、県民・事業者・市町村との連携による実効性ある取組を重視しています。

【キーワード】 脱炭素社会、カーボンニュートラル、資源循環、プラスチック対策、気候変動適応策、県民・事業者・市町村との連携

政令指定都市の環境基本計画

政令指定都市に共通して、2050年を見据えた脱炭素社会の実現を最重要課題とし、再生可能エネルギー導入や省エネを推進するとともに、資源循環の推進やプラスチック削減、生物多様性保全と自然共生社会の形成を重視しています。加えて、気候変動適応策や防災強化に向けた都市構造の転換や地域主体の連携による持続可能な都市づくりを柱としています。

【キーワード】 脱炭素社会、再生可能エネルギー、資源循環、生物多様性保全、自然共生社会、気候変動適応、都市構造の転換、地域主体の連携、持続可能な都市づくり

神奈川県内市町村の環境基本計画

地域特性を踏まえた生活密着型の脱炭素化の推進を軸に、家庭部門の省エネや再生可能エネルギー導入拡大を重視しています。あわせて、里地里山や河川・海岸の生物多様性保全、ごみ減量や資源循環の徹底を進めています。

さらに、気候変動適応策や防災対策、住民・事業者との地域協働による持続可能なまちづくりを共通理念としています。

【キーワード】 生活密着型、脱炭素化、生物多様性保全、資源循環、気候変動適応、住民・事業者との地域協働

- 「鎌倉ビジョン 2034」と「鎌倉市民憲章」の全文、「鎌倉市環境基本条例」の基本理念を示します。

鎌倉ビジョン 2034

【基本理念】

市民の想いのもとにつくりあげた「平和都市宣言」と「鎌倉市民憲章」は、鎌倉市のまちづくりにとって不変的な精神であることから、「鎌倉ビジョン 2034」の基本理念は、「平和都市宣言」及び「鎌倉市民憲章」の精神とします。

【将来都市像】

わたしたちのまち鎌倉は、長い歴史を持ち、世界に誇る貴重な歴史遺産・文化遺産と明るく広がる海や緑豊かな丘陵の自然景観に恵まれています。これら先人が築いてきたかけがえない資産は、今後も守り育て、後世に引き継いでいかなければなりません。そして、これらの資産のもと、鎌倉に関わるすべての人が生涯にわたり、お互いを思い、安心して、自分らしく鎌倉に「住みたい・住み続けたい・訪れたい・関わりたい」と思うまちにしなければなりません。この想いは、本市に綿々と引き継がれてきたものであることから、「鎌倉ビジョン 2034」の将来都市像は、平成8年（1996年）度を初年度とした「第3次鎌倉市総合計画」の将来都市像を引き継ぎ、「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」とします。

【将来目標】

将来都市像の実現に当たっては、過去・現在を踏まえつつ、未来に向け、持続可能なまちづくりが必要不可欠です。そのためには、公助のみならず、自助・共助・互助の精神が育まれた地域社会が必要であることから、本市では、平成31年（2019年）4月に「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」を施行し、それぞれの多様性を認め、お互いを思い、誰もが自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会の構築を目指しています。そこで、「生涯にわたり、誰もが安心して、自分らしく暮らせるまち＝共生社会」を軸に据えながら、本市に対する市民の想いを踏まえた三つの将来目標を掲げます。

▶自然・歴史・文化を未来につなぐまち

先人が築いてきたかけがえない資産を後世に引き継ぐことは、今を生きる私たちの責務です。そして、これらの資産は、歴史遺産・文化遺産・海・自然景観だけで形成されているものではなく、先人から引き継がれた本市に対する想いの積み重ねでもあります。これらの資産の中には、国際的な目標の達成に欠かせないものもあることを踏まえ、次代の本市、そして次代の世界に向け、自然・歴史・文化を洗練するとともに、こうした資産を効果的に活用しながら次の世代を育成し、その世代とともに、目に見える形だけではない資産を後世に引き継いでいるまちである「自然・歴史・文化を未来につなぐまち」を形成します。

▶多世代・多文化・多様な絆がいきるまち

持続可能なまちづくりに向けては、行政のみによる都市経営ではなく、まちづくりを自分事と捉える人や企業、団体等による都市経営が必要です。そして、この実現のためには、個々人がその実現を目指すのではなく、まちづくりを自分事と捉える方々が増え、多世代・多文化・多様な方々がつながることで形成されたコミュニティにより、その実現を目指すことが重要です。そこで、住民がつながり、多世代がつながり、かつ、来訪者を含めた本市に関わる人、企業、団体等がつながり、共栄しているまちである「多世代・多文化・多様な絆がいきる（生きる・活きる）まち」を形成します。

▶ひとの想いが尊重される豊かで安全なまち

安心できる安全なまちは、日々の生活に最も重要です。そして、この安全は、防災や防犯からだけでなく、心と体の健康や賑わいから生まれる豊かさからも確保できます。そこで、災害等から身を守る安全だけでなく、日々の生活において感じる不自由をできる限り取り除き、豊かな生活環境を構築することで確保できる安全が備わっているまちである「ひとの想いが尊重される豊かで安全なまち」を形成します。

鎌倉市民憲章

前文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。

すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本文

- 1 わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
- 1 わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
- 1 わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
- 1 わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
- 1 わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

鎌倉市環境基本条例（抜粋）

（基本理念）

- 第3条 環境の保全は、市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で必要とする良好な環境を確保し、これを将来の世代へ継承していくことを目的として行われなければならない。
- 2 環境の保全は、人と自然とが共生し、環境への負荷が少なく持続的に発展することができる社会を構築することを目的として、すべての者の積極的な取組によって、行われなければならない。
- 3 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに、市民の健康で安全かつ快適な生活を将来にわたって確保する上で極めて重要であることから、すべての事業活動及び日常活動において推進されなければならない。

次ページに未来ビジョン（案）を示します。

3. 未来ビジョン（案）

第4期鎌倉市環境基本計画では、目指す将来像をわかりやすく示すことで、より市民・事業者・滞在者に訴求力のあるものを目指します。

第4期鎌倉市環境基本計画が描く未来を表す**未来ビジョン（案）**を20通り作成し、そこから選んだ**3案**を提示します。

特徴		候補案	未来ビジョン（案）	説明
① 重視点を強調	「継承」や「挑戦」、「楽しさ」など、未来の環境とその実現に向けて重視したいことを強調した文章	共生の「環(わ)」をつなぐまち かまくら	[案1] 共生の「環」をつなぐまちかまくら	【人のつながりや継承を強調】 「環」は「環境」や「エコシステムの物質循環」「資源循環」「人のつながり」などを指し示す言葉です。 自然との共生だけでなく、これまでの鎌倉の環境や環境保全活動を継承して、市民だけでない滞在者など多様な主体との共生を目指したいという思いを示しています。
		環境のコトはじめ ～未来につなぐ みどり豊かな古都 かまくら～		
		ワクワクが「環(めぐ)る！」次世代環境都市かまくら		
② 環境のテーマを総括して、簡潔に表現	近年、重視されている環境のテーマや従来及び今後の施策への思いを総括した、短い文章	豊かな未来を共に創るまち かまくら	[案2] 豊かな未来を共に創るまち かまくら	【未来の方向性を簡潔に表現】 本計画が目指すものを「豊かな未来」として簡潔に表現するとともに、その実現に向けて、すべての環境のテーマを横断する、市民や事業者、観光客、行政の連携や協働を「共に創る(共創)」という思いを示しています。
		守り育て広める 自然豊かな古都鎌倉		
		古都鎌倉 いざ持続可能な未来へ！		
		未来につなぐ 持続可能な古都鎌倉の環境		
		人と歴史と自然が未来につながるまち かまくら		
		みどり鮮やか 海ブルー 古都鎌倉をみらいへ		
		古都を包む自然環境とともに 持続可能な未来へ		
③ 環境のテーマや市の特性を網羅した表現	近年、重視されている環境のテーマや鎌倉市の特性を網羅した文章	地域で守り育てる 緑あふれる古都かまくら	[案3] 歴史の息吹と豊かな縁が未来につながる、循環型共生都市かまくら	【市の特性とテーマの網羅性を重視】 鎌倉市は自然と歴史や市民活動等により、魅力ある古都としてのまちを形作ってきました。 こうした古くからの豊かな環境を次世代に受け継いでいくために、環境への負荷の少ない持続的に発展できる循環型共生都市を構築していく思いを示しています。
		私たちが守り育てる サステイナブルシティかまくら		
		人の暮らしと環境が共生する 自然あふれる古都かまくら		
		古都の歴史文化と自然が調和し、次世代へつながるまち		
		歴史の息吹と豊かな緑が未来につながる、循環型共生都市 かまくら		
		風格ある鎌倉を自然とともに 未来へ ～持続可能な古都鎌倉～		
海と山の美しく豊かな歴史をもつ古都を 地域循環共生圏に				
守り・育て・後世に引き継ぐ 『歴史と緑ゆたかな わがまち かまくら』				
海と山 豊かな歴史を 守り育てる 『持続可能なまち かまくら』				
わたしたちがまもりそだてる 『歴史と自然と笑顔あふれるまち かまくら』				

4. 未来ビジョンマップ（案） ※現時点では鎌倉市の現状を描いたマップ上に、各スポットで期待される未来の取組や状況を表現したラフスケッチとなります。

未来ビジョンについては、目指す将来像を示すだけでなく、未来のまちのすがたを未来ビジョンマップとしてイラスト化して、第4期環境基本計画に掲載することとします。

■冒頭メッセージ（案）

2050年、あなたは何才になっていますか？

今、大きな課題となっている地球温暖化では、2050年にはネット・ゼロ[※]の実現が世界的な目標とされていますが、脱炭素がいくら進んでも、気温の上昇は避けられないと言われています。気候変動は2050年の私たちの暮らしにどのような影響を与えているのでしょうか？時代の流れが加速するなか、AIやドローンだけでなく、今はまだないテクノロジーの進歩により、私たちの暮らしは想像もつかないものとなっているのでしょうか？それとも原点回帰してアナログな部分も多く残っているのでしょうか？鎌倉の緑や海は、今のままの姿でしょうか？滞在する観光客とは、よい関係性を築けているのでしょうか？

今回の計画策定にあたり、子どもを含むたくさんの方々の声を集めてきました。「鎌倉の緑や海、豊かな自然環境、きれいで安心できる生活環境がずっと続いてほしい」「鎌倉に滞在するすべての人に、わたしたちが鎌倉で大事にしていることを共有して大事にしてほしい」「わくわくする気持ちを大事にしたい」そんな声が聞こえてきました。思い描く未来のかまぐらの理想の姿は一人一人違うと思いますが、わたしたちの目指す姿を思い描く一助となるよう、今回、集めた声をふまえて「鎌倉の2050年の理想の姿」を絵にしてみました。

遠い未来のことは想像しづらいけれど、今の私たちのふるまいの結果は、10年、20年、次の世代、さらにその次の世代へと延々とつながっていきます。

2050年、あなたはどんな鎌倉で暮らしていたいですか？その姿の実現のために、今日から、みんなで、できることを始めてみませんか？

※ネット・ゼロとは、温室効果ガスが排出される量と吸収・固定される量の差し引きがゼロになることをいいます。

次ページに未来ビジョンマップ（案）を示します。

■未来ビジョンマップ (案)



※動物等の位置は今後調整予定です。

■活動イラスト一覧（案）

地図上の対応	ビジョンの記載事項	実現された未来
①	使っているエネルギーは全て再エネ	鎌倉市に市外から供給されている電力は、再生可能エネルギー100%となっている。
②	交通の円滑化	渋滞がなく、市民も滞在者もストレスなく安全スムーズに移動が実現している。
③	空飛ぶクルマ、ドローン宅配	渋滞を回避し、災害時にも強い新しい交通・流通インフラが、鎌倉の景観に溶け込む形で整備されている。
④	EV・FCVの自動運転バス、電車、ゼロエミッション船	市内全ての公共交通機関が脱炭素化されている。
⑤	次世代マイクロモビリティ	住宅街では、ゆっくりと走る電動カート（グリーンスローモビリティ）が住民の足となり、高齢者も安心して外出できるコミュニティが維持されている。
⑥	宿泊を通じた地産地消	地産地消が継続・拡大し、来訪者に鎌倉の味を楽しんでもらっている。
⑦	先進的な脱炭素のまち	都市そのものが発電や緑地による冷却の機能を持ち、気候変動に適応した姿になっています。
⑧	鎌倉野菜の栽培（関谷地区）	適地適作で温暖化に適応した作物が栽培され、鎌倉ブランド野菜は変わらず人気。地元や全国に供給されている。
⑨	温暖化に適応した漁業	温暖化で魚種は変わったが、それに適応して漁業が継続し、魚介類が食卓に提供され続けている。
⑩	坂ノ下地区に整備する漁業支援施設と魚が集まる豊かな藻場	「マナブ・ツドウ・トル」を掲げた新漁港が建設され、地域の人々がスキューバダイビングで豊かな藻場（海中林）を観察するなど、市民や観光客が海の豊かさを実感できる場となっている。
⑪	生態系	谷戸の自然、在来種の生態系が保たれている。
⑫	自然資本の活用	鎌倉の緑は継続的に手入れをされ、その過程で伐採した木や竹は加工されて暮らしの道具（かご、お皿など）や鎌倉彫になり、それを市民や観光客が購入して、そのお金で緑の保全が図られている。
⑬	ホテルと小川	水辺環境や生態系が保全されている。きれいな水と緑が保たれ、それを人々が愛でる暮らしが続いている。
⑭	保全とエコツーリズム	市民による身近な自然の保全活動が継続し、良い環境が保たれている。また活動の中でエコツーリズムによる資金獲得や環境教育がなされ、若手の後継者が育って持続可能な活動につながっている。
⑮	歴史文化を通じた多国籍交流	鎌倉をよく知る市民と海外を含む来訪者の交流が図られ、お互いの理解が進んでいる。
⑯	鎌倉のサーファー文化の継承	幅広い世代が鎌倉の海を楽しみ、生き生きとしているサーファーの文化が脈々と続いている。
⑰	観光と市民生活の調和	観光客と市民とのコミュニケーションが図られ、清潔で安全な住環境と観光客の満足が両立し、市民の生活が守られ、鎌倉の素晴らしさが世界に発信されている。
⑱	まちのクリーンアップ	宅地、海岸（七里ヶ浜）、山林において、住民・サーファー・観光客が一体となって清掃。清掃が「交流の場」や「レジャー」の一部になっている。
⑲	ごみが消えるゴミ箱	西鎌倉小学校の土から発見されたプラスチックを分解する菌「ニシカマエンシス」が活用され、プラスチックごみを分解している。
⑳	ごみという概念のないまち	解体された建物の部材は全て必要な場所に引き取られていき、新たな建物の部材として活用され、別のものに作り変えられるなどして、資源が循環している。